

貫井の風

令和5年度 5月号

NO. 2

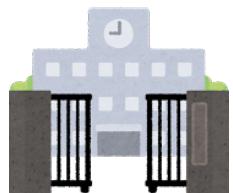
練馬区立貫井中学校 学校だより

「過ちて改めざる、これを過ちという」

校長 桐野 和之

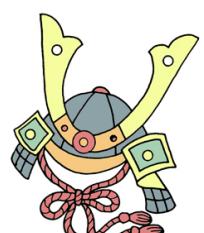
「過ちて改めざる、これを過ちという」。この言葉はどのような意味かわかりますか。

まず「過ち」という言葉の意味は「ついうっかり失敗してしまったり、間違ったりしてしまうこと」を言います。そして、「改めざる」という言葉は「改めないこと」、つまり「うっかり失敗したことや間違ってしまったことを二度としないように改めようとしない、あるいは直そうとしない」という意味です。また、その次にある「これを過ちという」というのはつまり、「このことを本当の過ち、本当の失敗であり間違いである」という意味です。



さて、これは中国の孔子の言葉です。孔子が生きていたのは今から2500年以前の中国です。孔子は人としての生き方について深く考え、人としての礼儀や態度、思いやりの心などをとても大切にした人でした。さらに、政治家に対しても、政治をする人自身が礼儀や態度、思いやりのある心づかいなどを大切にして、道徳を重んじた政治を行なうべきだと考えました。孔子は中国の各地を回って、それぞれの国の政治を行う人たちにその考え方を広めようと努めました。しかし、その願いは、なかなか実現できませんでした。思いが果たせなかった孔子は、自分が産まれた魯という国に戻り、たくさんの弟子たちを教えて育てることに専念するようになりました。そのようなある日、孔子は弟子たちに、「人はいろいろと失敗してしまうものだ。それは仕方のないことである。だから、のような失敗を二度としないように改めていくことが、人としてとても大切な生き方なのである。しかし、失敗をしたにもかかわらずそれを反省しようとせず、直そうともしないとすれば、そのような考え方や態度こそが、人としての生き方の大きな過ちなのである」と教えたのです。そのときの言葉が「過ちて改めざる、これを過ちという」という言葉だったのです。

ところで、皆さんも、ついうっかり間違えたり、失敗したりするようなことがあると思います。そのようなとき、すぐに「ごめんなさい」「すみませんでした」と謝ると思います。そして、二度とそのようなことをしないように、気をつけるようにすると思います。そのようにすることが、人の生き方としてとても大切なことなのです。その反対に、言い逃れをしたり、ごまかしたりすることは、よくないことです。ついうっかり間違えたり、失敗したりしたときには、恥ずかしいという気持ちが起きるかもしれません、すぐにそれを認めて謝るとともに、二度とそのようなことをしないように努力すべきです。



孔子は人としての生き方にかかるすばらしい教えをたくさん残しました。そこで、孔子が亡くなった後、多くの弟子たちが、孔子の教えてくれたすばらしい言葉を『論語』という本にまとめました。「過ちて改めざる、これを過ちという」という言葉も『論語』のなかにある言葉の一つです。皆さんにも一度、この論語を読んでみてほしいと思います。

生徒会説明会

4／12に1年生の貫井中学校への入学に伴い、生徒会主催「生徒会説明会」が実施されました。

目的は本校の生徒会組織や各種委員会の仕事内容などを全学年であらためて理解、認識をするためです。このため、会では各委員会、そして本部役員会からさまざまな説明がありました。

各委員会はいろいろな工夫を凝らし、日常生活の当たり前の生活シーンを生徒自らがおもしろ、楽しく演じて、全校生徒に理解を求めました。例えば、チャイム着席、標準服の着こなし、ボールの貸し出し、給食時の注意点などについて自らの寸劇等によるパフォーマンスを交えた説明が行われました。

生徒会説明会は、生徒自らの力で、全校生徒が生徒会、委員会等の活動について楽ししく学び合い、深い理解に結びついていく貴重な場になりました。



部活動説明会

4／14（金）の第5、6校時にはアリーナで1年生を主な対象とした部活動説明会が生徒会主催、部活部長会を中心に実施されました。全校生徒での実施は4年ぶりです。

説明会では各部とも、いろいろな工夫を凝らし新入生の勧誘に必死になりました。また、会場は、各部のいろいろなパフォーマンスにたびたび爆笑、喝采しました。例えば、DJを真似たパフォーマンスもあり1年生からも大いに笑いを誘っていました。どの部も楽しく活動していることを必死にアピールしているようすがあり、1年生にとって入部のために大変参考になりました。

貫井中学校の部活動は、4／17（月）から4／21（金）までが仮入部期間となりました。入部はあくまでも個人の自由な意志に任せられています。各部の入部手続きが4月24日（月）から始まりました。

部活動は顧問となる教員の意志、生徒の活動意欲が合致した際に部の存在、活動が成立します。ただ、教員を含めた働き方改革が呼ばれる社会情勢の中で、学校の部活動のあり方がいろいろと話題になり、その適正なあり方が求められています。

現在、教員を含め、働き方改革の動向を踏まえた部活動のあり方、そして他への移行が、スポーツ庁等を中心に国全体で舵取りし、動き始めているのも事実です。学校としてはできる範囲の部活動への努力を今後も続けていきます。



学校図書館の利用について

1年生では国語の時間（4／24）に、学校図書館の利用の仕方について国語科担当と本校の図書館管理員の協働でレクチャーが行われ、先ずは図書館に置かれている本の並び方について学びました。

図書館にある本はその内容によって0～9までの番号によって分類され、日本十進分類法=NDCによる方法で分類されています。そして、本の背表紙についている分類記号等

ごとに棚に収められていることを知りました。

図書館管理員さんから具体的な本の紹介（例：世界で一番美しいクラゲ図鑑、例：空想科学読本2、例：世にも奇妙な博物館）をしてもらいながら本の分類法について学び、本が各棚に分類方法に基づいて並んでいることを確認しました。

つづいて本の貸し出しについて説明を受けました。

本を借りるときは一人3冊まで、貸し出し期間は2週間です。カウンターに借りる本を持っていき図書委員に渡す。図書委員に自分の学年・クラス・出席番号・氏名を伝える。そして、図書委員に自分のバーコード・借りる本のバーコードを読み取ってもらい貸し出しを受けます。返すときにはその逆の手続きをしながら本を元のあった場所に戻します。場所が分からないときは、返却済み置き場に置くというしくみも学びました。

補足として、現在図書委員会で「図書委員からの挑戦状」という取組が行われており、その説明もありました。イベントを紹介している台には、本を探すヒントの画が置かれていきました。いくつかの本のヒントを紹介します。

ヒント①：この本には世界の記録が載っています。

ヒント②：中学2年生の二人が主人公。主役の一人は無敵のサバイバー。5巻の下。

ヒント③：有名な小説家である夏目漱石の作品、猫が主役の作品です。

授業の最後に生徒たちは自ら図書館を探検し、借りてみたい本を自ら探す時間になりました。ただ探すだけでなく、「実際に借りても良いですよ」という指示が図書館管理員さんよりありました。

本校の図書館はあまり大きな規模ではありませんが、それでも本棚にはいろいろな図書のカテゴリーがあり、本を見ているだけでいろいろな想像力や思考力を張り巡らす時間に自然となっていました。

学力の向上の基盤には、読書による読解力の向上がその根底にあります。ぜひ、読書習慣を身に付けることで学習の幅を広げてほしいと思います。

貫井中学校開校60周年

貫井中学校は今年で開校61年目を迎え、11月11日（土）には開校60周年記念式典を実施する予定です。5月1日（月）は開校記念日でした。

本校が開校した頃はどのようなようすだったのか。開校の歴史を簡単に振り返ってみます。

本校は1963年、昭和38年4月1日に開校しています。

地域人口の増加により練馬中学校から分離独立する形で開校しました。開校当時の生徒数は527名、クラス数12学級でした。校名は地元の町名を校名にしています。シンボルとなる校章はアブラナをモチーフにデザインされました。

アブラナは十字花植物で地域の代表植物です。十字花植物は高等な植物で、花びら、めしへ、おしへ、がくなどを全部もっていて、完全花と言われています。人間もこの花のように知・情・意の調和の備わった円満な人格になる思いが込められています。花びらは「自立」「誠実」「根気」「健康」の4つの生活目標を表しています。

昭和38年6月5日に新校舎で開校式が行われていますが、第1回入学式は間借りしていた練馬中学校で行われ、その後生徒たちは自分の机や椅子をもって貫井中学校の新校舎に引っ越ししています。当時の貫井町内には4階建て以上の建物がなく、校舎3階以



上からの眺望は大変良かったらしいです。

土地・工事にかかるエピソードとして、昭和36年に貫井中建設推進委員会（会員15名）が設立され、のちに初代PTA会長となる越後幹雄氏が委員長を務めていました。このように多くの方々のご尽力により昭和38年5月に新校舎が完成、同月14日に間借りしていた練馬中学校より新校舎に移転しました。翌年の昭和39年1月23日には体育館落成式が挙行されています。さらに、昭和49年3月に隣接していた「酒悦」工場跡地（今の下校庭あたり）を買収し、翌年1月に校庭拡張工事が完了しました。

本校が開校した昭和38年は、どんな年だったのでしょうか。昭和38年は、最初の東京オリンピック・パラリンピックの前年です。当時は、池田内閣で後に首相となる佐藤栄作氏がオリンピック担当国務相に就任しています。また、初のテレビ長編アニメ「鉄腕アトム」の放送が開始されました。さらに、テレビ受像機数が1435万台になり、アメリカに次いで日本が世界第2位の国となっています。



当時の流行歌は「高校三年生」「東京五輪音頭」「こんにちは赤ちゃん」。流行語として「バカンス」「ハッスル」「番長」が流行っていました。テレビCMで「マーブルちゃん」が流行ったのもこの頃です。

さらに、今では当たり前になっている教科書の付与が、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」が制定され、憲法の規定する無償性の範囲が義務教育諸学校（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程並びに特別支援学校の小学部及び中学部）にまで拡大しました。また、授業料の無償性は国・公立学校に限定されていましたが、教科用図書は、私立学校も含め、すべての義務教育諸学校に適用されるようになったのも昭和38年の年でした。

学校だよりの6月号では、貫井中学校が開校した頃の学校周辺のようすを同窓生の思い出を通じて紹介したいと思います。

新聞記事より（天声人語 4/27）

「驚(イーグル)は舞い降りた」。人類初の月着陸をなしつげると、アポロ11号のアームストロング船長は無線で告げた。イーグルは着陸船の名である。じつに静かな着地だった、と伝記「『ファースト・マン』（ジェイムス・ハンセン著）にある▼宇宙探査に気楽な道のりなどあるはずもないが、それにしても綱渡りだったらしい。目的地は岩がごろごろしていた。別の場所を探して飛び続けると、燃料がみるみる減っていく。なくなれば月から戻れない。警告ランプが灯(とも)り、燃料切れまで残り30秒—というタイミングだった▼同じように燃料切れの危機に見舞われて、こちらは残念な結果となった。日本の宇宙ベンチャー「i space（アイスペース）」による月着陸の挑戦である。月面を目前にしながら、降下中の逆噴射が十分できずに落ちたらしい。綱を渡りきるまで、あとちょっと。なんとも惜しい▼関係した方々の落胆はさぞや大きかろう、ときのうの会見をのぞき見て、意表を突かれた。袴田武史代表は「着陸までのデータを獲得できた。次へ向けた大きな大きな一步だ」と、じつに前向きであった▼宇宙開発をめぐり、国家が威信をかけて競争を繰り広げる。そんな時代から、民間企業も夢と資金を持ち寄って参入する時代へ。新しい歴史の始まりなのだろう▼『宝島』の作家、スティーブンソンは「われわれの目的は成功ではなく、失敗にたゆまず進むことである」と言った。はるか遠くにゴールを見据えた言葉だろう。夢も、宇宙も果てしない。

